

研究主題

# 未来を拓く国語教育の創造

—評価活動の充実を通して、学びの質を高める単元づくり—

話すこと・聞くこと部会 研究主題

自己充実を目指し、「求めて聞く子」を育成する指導と評価の工夫

## 第6学年国語科学習指導案

単元名 「自分とかかわってくれた人の話を聞こう」

日時：令和4年2月18日（金）5校時

児童：文京区立千駄木小学校 第6学年2組39名

担任：文京区立千駄木小学校 主任教諭 武藤 文吾

指導者：墨田区立両国小学校 主任教諭 橋 由紀

### 1 単元の目標

- (1) 原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。
- (2) 話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。

### 2 単元の評価規準

	ア知識・技能	イ思考・判断・表現	ウ主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	①原因と結果など情報と情報との関係について理解している。	①「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。	①学習の見通しをもって、進んで話し手の話を聞き、自分の考えをまとめ、自分の成長を実感しようとしている。

### 3 単元構想

#### (1) 児童について（児童観）

6年生の児童は中学年時から経験を積み重ね、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心に捉え、自分の考えをもつことはできるようになってきている。しかしその一方で、話し手の話の内容に興味を示さず受動的に聞く態度が見られることも多い。その原因として、話し手の伝えたいことやその内容を自分に関連付けて聞く経験が不足していることや、自分の考えを伝えることに比べて他者の話に耳を傾けることの大切さやよさを実感している児童が少ない実態があると考えられる。

このことから、「聞きたい」という聞く必然性のある話題を取り扱うことで、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる力を身に付けさせることが必要であると考えた。

#### (2) 学習材について（学習材観）

本単元では、「自分と関わってくれた人から、自分の成長について話を聞く」という学習材を設定している。話し手が自分の成長について話すため、どの児童も興味をもって聞くことができると考えた。さらに、自分たちの成長を学習材にすることで、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができると考えた。

さらに、今まで同じ学級になったことがある友達や、関わりのある児童から話が聞けるよう意図的にペアリングを行ったり、遠方にお世話になった教職員とICTを活用して繋がる工夫を行ったりして、児童がより意欲的・主体的に学習に取り組めるようにした。

#### (3) 単元について（単元観）

児童らは、様々な場面で「小学校生活最後」の行事や学習を経験し、「卒業」というゴールが間近になってきていることを実感している時期である。休み時間や授業中にも「〇年生の頃の自分はこうだった。」「〇年生の時の〇〇さんはこんな感じだったよね。」などと、自分たちの成長を振り返る会話が増えてもいる。そこで、「六年間の成長を実感するために、自分と関わってくれた人から話を聞く。」という単元を設定した。

児童にとって「聞きたい」という必然性のある単元を設定することで、「求めて聞く」力を高めるとともに、自分の学びを実感したり成長に気付いたりすると考えた。「小学校卒業」という人生の節目を前に、本単元を行うことで、児童にとって心に残る意味のある学びにしていきたい。

### 4 研究主題に迫るために

#### (1) 学びの質の向上を図る単元の工夫

##### ① 必然性のある単元設定

児童らは、小学校生活最後の一年ということを噛みしめながら日々学校生活を過ごしている。そして卒業まで1か月となった今は、卒業に関連した学習や行事に向けて自分の成長を振り返っている。そこで、「六年間の成長を実感しよう」という単元を設定することで、児童にとって必然性のある単元になるようにした。

##### ② 効果的な話題設定

六年間最も身近なところで自分の成長を見ていた教職員や友達から、自分の成長についての話を聞くという話題を設定することで、児童が意欲的・主体的に聞いた

い・知りたいと思えるようにした。

## (2) 学習改善・授業改善につながる評価活動の工夫

### ① 聞く場面での評価の工夫

聞き手が話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら考えをまとめられるようにメモを取らせ、聞く場面での評価が可視化できるようにした。また、話を聞いて自分が大事だと思ったことをメモしておくだけでなく、聞いているときに感じた内言についてもメモの後に書き加えることで、内言についても見取れるようにした。

● 期待する内言

- ・ 共感したこと・嬉しかったこと
- ・ 意外だったこと・思い出したこと
- ・ 自分の考えとの共通点や差異点
- ・ 質問したいこと

● 確かに四年生の頃は係や当番の仕事をしなくて友達や先生に何度も注意されていて、迷惑をかけていたと思っただ。自分でも高学年になって変わろうと思って、けじめをつけて行動すること、頑張ったから、そのことについて気付いてくれて嬉しい。

へメモの取り方 例)

係・当番◎

四年の頃 仕事×

掃除当番忘れ↓遊びに行く

注意されても「めんどくさい」

次の日も掃除×

今↓自分から掃除行く

友達にも声かける

### ② 学びや成長を実感することができる振り返りの時間の確保とワークシートの作成

ワークシートにめあてに沿った学習感想を書かせることで、毎時間の学びや成長を実感できるようにした。また、単元末には全体を振り返る時間を設定することで、自分の聞く力が伸びたことをさらに実感できるようにした。

### ③ 児童が学びを実感するための教師による価値付け

教師が聞く場面での児童の様子やメモを見取り、それを基によい聞き方やよいメモをとっていた児童を学級全体で価値付けることにより、学級全体の学びが深まるようにする。さらに単元末では、単元全体を通しての児童の成長を価値付けることで、児童が自分の成長を実感するとともに成就感が得られるようにした。

## (3) 言葉の力の活用を意識した学習活動の工夫

### ① 次の学習に生かす

六年間の出来事や自分の成長について実感できたところで、卒業文集づくりに取り組むことを設定した。書くために必要な材料を本単元で集めることができているため、集めた情報を生かして書くことができると考えた。

6 単元計画

次	時	学習活動	○指導上の留意点	◆評価 ★評価方法
1次	1	<p>○担任や指導者の話を聞く。 ・担任の先生や校長先生の話から自分たちの成長を振り返る。 ・校長先生以外に話を聞いてみたい人を挙げる。</p> <p>○学習計画を立てる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>学習計画</p> <p>①友達から話を聞く。 ②関わりがあった人(先生方)から話を聞く。 ③自分の成長をまとめる。</p> </div> <p>○単元を決める。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>六年間の成長を実感するために、関わってくれた人から話を聞こう。</p> </div> <p>○付けたい力を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・自分が知りたいことについて相手が話しているか聞く力 ・話し手の考えと自分の考えを比べながら聞く力</p> </div> <p>○本時の振り返りをする。</p>	<p>○この1年間での担任からみた成長や、指導者が校長先生から聞いている成長の様子や良い点を伝える。</p> <p>○肯定的な反応であった場合は、実際に聞いてみようとして投げかけ、否定的な反応であった場合は、実際に聞いて確かめてみようとして投げかける。</p> <p>○児童から名前が挙がった先生・職員方から4人に聞くようにする。</p> <p>○一番身近なところで成長を見てきた友達にも聞くことを提案する。</p> <p>○付けたい力を付けることにより、自分の成長を知り、実感することができることを伝える。</p>	<p>◆主体的①学習の見通しをもって、進んで話し手の話を聞き、自分の考えをまとめ、自分の成長を実感しようとしている。 (★観察・ワークシート)</p>
	2	<p>○前時の学習を振り返り、本時の学習内容を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>小学校生活を振り返り、自分や友達の成長を見付けよう。</p> </div> <p>○自分の成長について考える。 ○ペアの友達の成長について、スピーチ原稿の準備をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>伝わりやすい表現</p> <p>・昔と今を比べる表現 例：前は、昔は、～の頃は、今は ・気持ちを表す表現 例：嬉しかった、悲しかった ・接続詞 例：でも、また、さらに、例えば</p> </div> <p>○本時の振り返りをする。</p>	<p>○友達の成長については、児童同士の間関係や過去の関わりから教師が意図的にペアリングする。</p> <p>○モデルを提示し、話すときに使うとよい表現について確認する。聞くときにはその表現に気を付けて聞くよう伝える。</p>	<p>◆知識・理解①原因と結果など情報と情報との関係について理解している。 (★観察・ワークシート)</p>

2次	3 (本時)	<p>○前時の学習を振り返り、本時の学習内容を確認する。</p>		
<p>友達から話を聞いて、自分の成長を見付けよう。</p>				
<p>○本時の学習の流れを知る。 ○本時のめあてを確認し、聞き方について考える。</p>		<p>めあて ・自分が知りたいことについて友達が話しているか聞く。 ・友達の考えと自分の考えを比べながら聞く。</p>	<p>○モデルを提示し、どこを聞き取りメモすればよいのかを考えさせる。</p>	<p>◆思考①話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。(★観察・メモ・学習感想)</p>
<p>○友達から話を聞く(1回目) ・話を聞く。 ・メモをとる。</p>		<p>○自分の以前の様子と今の様子、自分の考えと比べて分かったことや考えたこと、話を聞いて思い出したことをメモするよう助言する。</p>		
<p>○メモのとり方を振り返り、メモの内容や視点について確認する。</p>		<p>○聞いているときに心の中で思ったことをメモと一緒に書いておくよう伝える。</p>		
<p>○友達から話を聞く(2回目) ・話を聞く。 ・メモをとる。</p>		<p>○本時の振り返りをする。</p>		
4		<p>○前時の学習を振り返り、本時の学習内容を確認する。</p>		
<p>先生方から話を聞いて、自分の成長を見付けよう。</p>				
<p>○前時の振り返りをし、本時のめあてを確認する。</p>		<p>○先生方から話を聞く。(4人) ・先生から話を聞く。 ・メモをとる。 ※4人分、4回行う。</p>	<p>○前時の振り返りをもとに、本時のめあてを提示する。</p>	<p>◆思考①話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。(★観察・メモ・学習感想)</p>
<p>○先生方から話を聞く。(4人) ・先生から話を聞く。 ・メモをとる。 ※4人分、4回行う。</p>		<p>○前時のモデルを掲示し、児童がいつでも確認できるようにする。</p>		
<p>○本時の振り返りをする。</p>		<p>○ICTを活用して先生方からのビデオメッセージを聞いて、自分で成長を確かめる時間にする。</p>		
3次	5	<p>○前時の学習を振り返り、本時の学習内容を確認する。</p>		
<p>六年間の成長を実感しよう。</p>				
<p>○本時のめあてを確認する。</p>		<p>めあて 聞いたことを生かして自分の考えをまとめる。</p>	<p>○例文を提示し、まとめ方の参考になるようにする。</p>	<p>◆主体的①学習の見通しをもって、進んで話し手の話を聞き、自分の考えをまとめ、自分の成長を実感しようとして</p>
<p>○聞いたことを生かして自分の考えをまとめる。</p>		<p>○友達の自己肯定感が高まるような感想を伝えるよう指導する。</p>		
		<p>○付けたい力が達成できたかの観点で振り返ら</p>		

	<p>○学級全体で自分の考えを伝え合い、成長を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを伝える。</li> <li>・ペアで話を聞いた友達から感想をもらう。</li> </ul> <p>○単元全体を振り返る。</p>	<p>せる。</p> <p>○教師も単元全体を振り返り、児童を価値付ける。</p>	<p>いる。(★発表・ワークシート)</p>
--	---	---	------------------------

6 本時の学習（第3時／全5時間）

(1) 本時のねらい

話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。

(2) 本時の展開

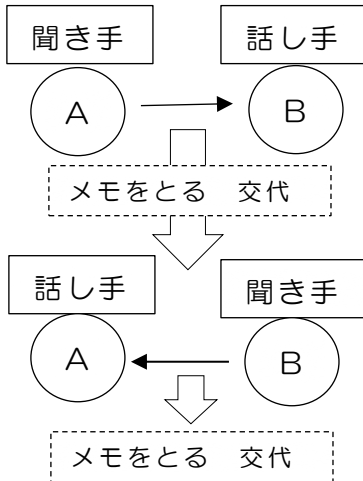
学習活動	○指導上の留意点	◆評価規準 ★評価方法
<p>1 単元計画を基に、本時の学習内容を確認する。</p>	<p>○今日はお互いの成長を伝え合い自分の成長を見付ける日だということを伝える。</p>	
<p>友達から話を聞いて、自分の成長を見付けよう。</p>		
<p>2 本時の学習の流れを知る。 ・聞き方について考える。 ・友達から話を聞く。(2回) ・今日の学習の振り返りをする。</p> <p>3 本時のめあてを確認し、聞き方について考える。</p>		
<p>めあて ・自分が知りたいことについて友達が話しているか聞く。 ・友達の考えと自分の考えを比べながら聞く。</p>		
<p>・モデルを見て聞き方について考える。</p>	<p>○モデルを提示し、どこを聞き取りメモすればよいのかを考えさせる。</p>	
<p>聞き手 ・自分の成長について話す。 「私は○○について成長したと思っているのですが、あなたは どう思っていますか。それ以外でもそれでもいいのですが、私の成長について教えてください。」</p>	<p>メモをとる視点 ・自分の以前の様子と今の様子 ・自分の考えとの共通点や差異点 ・自分の成長した部分</p>	
<p>話し手 ・聞き手の成長について話す。 「四年生のころは～。でも今は～。」 ・話し手が感じたことを話す。 「～すごいと思ったよ。」</p>	<p>○自分の成長した部分を聞き逃さないために、キーワードとなる表現に着目して聞くよう助言する。</p> <p>○聞いた感想を相手に伝えることで、話し手に自分が伝えたいことを理解してもらえたと実感することができることを伝える。</p>	
<p>聞き手 ・聞いた感想を伝える。 「私の○○についてよく見てくれてたんだね。」「～ことを伝えたかったことがよく分かったよ。」</p>		

聞き手

- ・聞いたことをメモする。
- ・心の中で思ったことをメモする。

4 友達から話を聞く。

① 一回目を行う。



② メモのとり方を振り返り、メモの内容や視点について確認する。

③ ペアを変えて二回目を行う。

5 本時の振り返りをする。

- ・めあてに対する振り返りをする。
- ・次時に生かしたいこと（めあてにしたいこと）について考える。

○ 聞いているときに心の中で思ったこと（共感したこと・嬉しかったこと・意外だったこと・思い出したこと・質問したいこと）をメモと一緒に書き留めておくようにする。

○ 話し手には、事前に一つか二つ程度の成長を話すように伝えておく。また、第一時で具体的なエピソードを交えて話すように指導しておく。

○ 第一時で振り返った自分の成長と比べながら聞くことを伝える。

○ 日本語の習得が不十分である児童に関しては、スピーチ原稿を読み上げる形で活動させる。聞き手のときは、話し手が手助けをしたり教師が支援をしたりしてメモをとらせるようにする。

○ ペアを変えるタイミングで再度聞き方の指導をしたり、よいメモのとり方をしている児童のメモを取り上げて価値付けたりする。その際メモをモニターに映し学級全体で共有できるようにする。

○ めあてに対する振り返りに加えて、次時に生かしたいことについても書かせる。

○ よい振り返りをしている児童を取り上げ価値付けることで学級全体の学びが深まるようにする。

◆ 話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。

★ 観察・メモ・学習感想

○ 概ね満足できる児童への次時以降の手立て

相手の話を基に自分の成長についての考えをまとめられるように、メモをとる視点に沿って書いている児童、良い振り返りをしている児童を取り上げて価値付ける。

○ 概ね満足できる状況を目指す児童への手立て

うまくメモを取ることができない児童には個別に支援を行う。また、話し手が助言をしてもよいことを伝える。